

みやした  
宮下遺跡

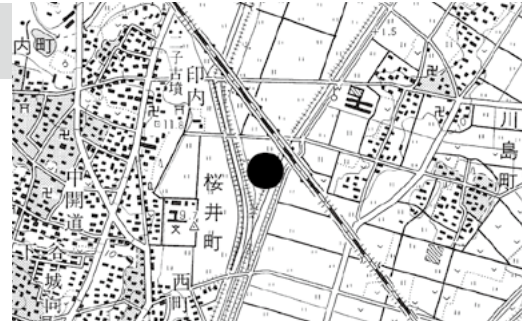
所在地 安城市桜井町小社  
(北緯34度55分30秒 東経137度6分1秒)

調査理由 中小河川改良工事(鹿乗川)

調査期間 平成25年12月～平成26年1月

調査面積 200㎡

担当者 宮腰健司



調査地点(1/2.5万「安城・西尾」)

**調査の経過** 調査は鹿乗川改修工事に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会の委託を受けて平成25年12月～平成26年1月にかけて実施した。当該遺跡は、平成23年9月に本センターによって80㎡の面積が調査されており、この平成23年度調査区の東側を中心に、南北に隣接して今回の調査区が設けられた。また西約300mでは安城市教育委員会による調査が行われている。

**立地と環境** 遺跡は鹿乗川と西鹿乗川が合流する地点の、標高約8mの沖積地上に立地する。周辺には碧海台地縁辺に沿って古井遺跡群や桜林遺跡・中狭間遺跡・亀塚遺跡が並び、二子古墳や比蘇山古墳などの古墳が造られている。

**調査の概要** 調査は平成23年度調査区の東側にあたる地区を13A区、北・南側の地区をそれぞれ13B区・13C区として分割して行った。既調査の成果を基に、重機によって遺物が含まれる暗黄色シルト質粘土及び黒褐色粘土質シルト上面まで掘削したところ、南半部のみ包含層が広がることを確認できた。その後厚さ3～5cmの包含層を除去し、黄褐色粘土層上面で遺構検出を行った。また遺構の重複がみられる部分があったため、2面に分けて測図した。さらに東半部については、鹿乗川や堤防・水田造成による攪乱を受けており、包含層・遺構が遺存していないことが判明した。

13A区では、北側で検出された001・002・010SDについては、遺物は出土していないが、近世以降の耕作に伴う溝と思われる。中央やや南で併行して走る溝007・011・013・016SDは、下位の020SDの埋没途中の窪地に掘削されており、007・013SDでは須恵器片が出土している。020SDでは松河戸式期の土器がややまとまって出土している。

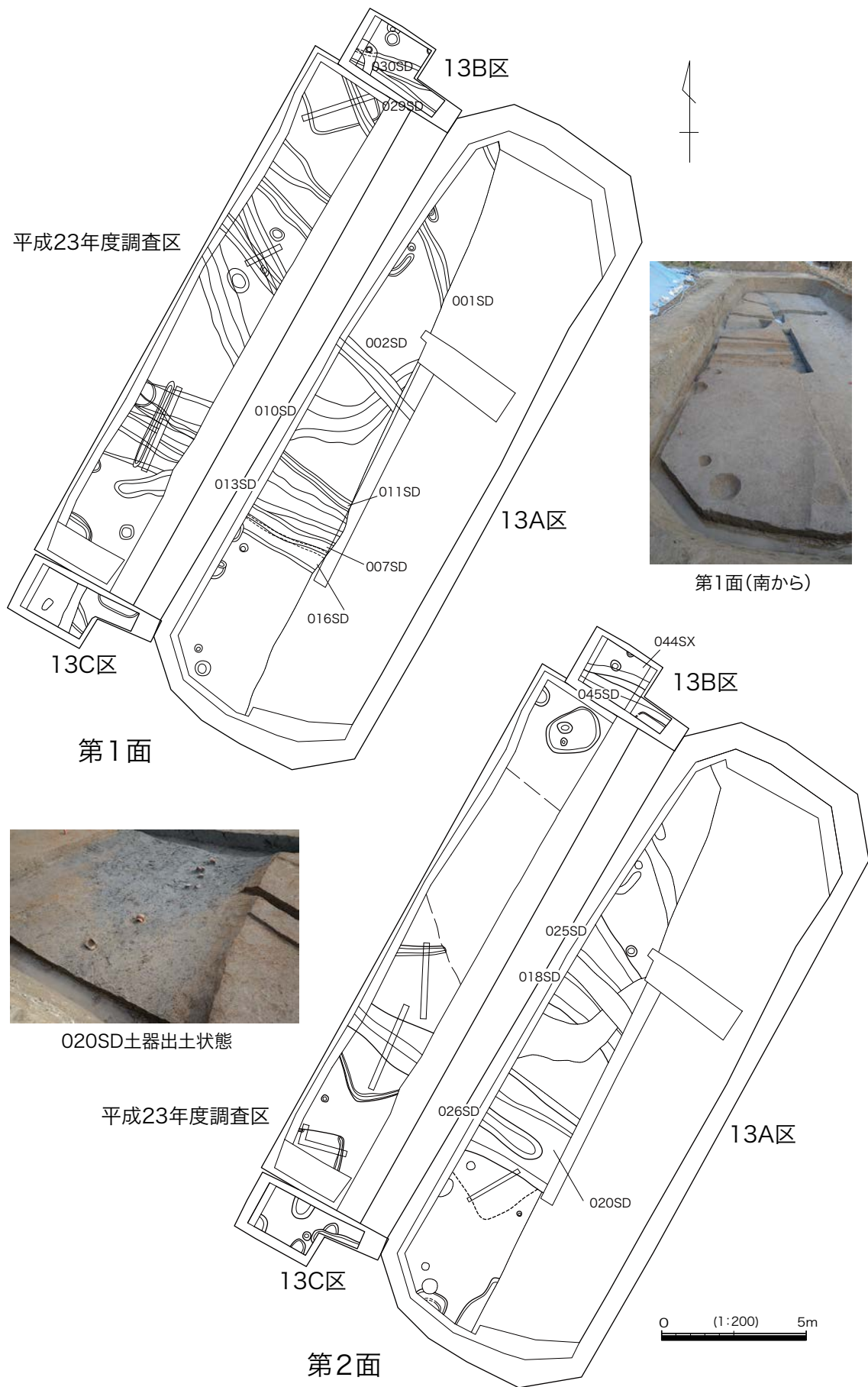
13B区では北西—南東方向に走る2条の溝029SDと030SDを検出した。さらに029SDの下位に重なるように045SDがあり小型壺が出土した。またその北側には溝または竪穴建物と思われる落ち込み044SXがある。13C区では土坑が検出されている。(宮腰健司)



第2面全景 (南から)



045SD小型壺出土状態



平成23年度調査区

第1面(南から)

13C区

第1面

020SD土器出土状態

平成23年度調査区

13C区

第2面

図1 宮下遺跡全体図(1:200)